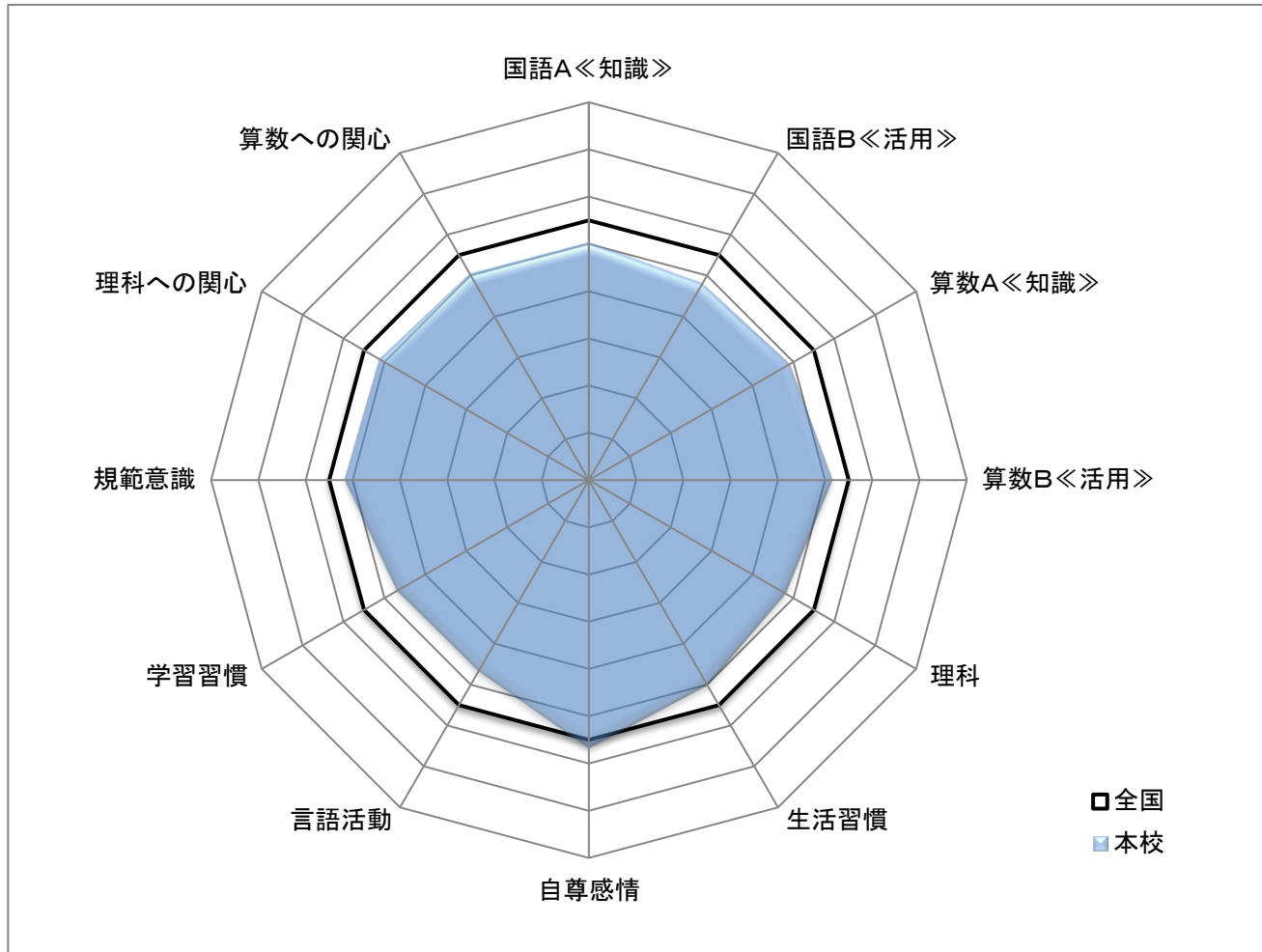


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

・平均正答率は3教科共に全国より低かった。差は1桁に留まったが、国語A 6.7ポイント、国語B 7.7ポイント、算数A 7.5ポイント、算数B 3.5ポイント、理科 8.3ポイント、全国を下回った。また、都平均も下回り、国語A・Bと理科は10ポイント、算数A 11ポイント、算数B 7ポイント、都を下回った。

《授業改善のポイント》

・国語は論旨の理解、主語・述語、構成、中心を明確にした作文、漢字や敬語の正しい使用、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比較しながらまとめる学習を積み重ねる。
 ・算数は単位量当たりの大きさ、180°以上の角の測り方、小数の除法や円周率の意味の理解を繰り返し指導する。また、与えられた条件や情報をグラフ、総数、変化した数と関連させて解釈し、記述する等、総合的に考える問題に取り組ませる。
 ・理科は実験結果を基に分析し、考察して、より妥当な考えを導き出し、記述する討論の機会を設ける。

《チャートの特徴》

◎自尊感情が全国より高く、「将来への夢や目標」は本校の児童の方が多くもっている。
 ・言語活動と学習習慣は全国の84%で、計画的な家庭学習習慣の確立は全国の50%と最も差が大きい。
 ・他の9項目も全国の90%以上に達し、特に規範意識の中の「人の役に立ちたい」という思いは全国より高く、本校の児童の志の高さが表れている。
 ・学習では「算数の勉強が好き」な児童が全国より7.1ポイント多く、「解き方や考え方が分かるようノートに書いている」児童も全国より0.9ポイント高く、少人数編成による習熟度別指導の効果が大きい。

《家庭・地域への働きかけ》

・各学期毎の家庭学習キャンペーン期間中に読書、宿題以外に自分の弱点克服のための課題を自主勉強ノートに設定し、保護者に評価や励ましをもらう。
 ・地域の図書館の資料で、教科書から発展した内容について調べ、学習を深める。